

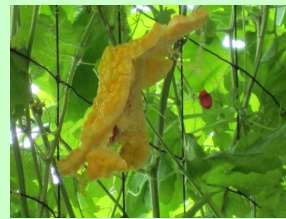


ゴーヤの一生から学んだことについて話しました。

始業式にあたり、子どもたちに伝えたことです。

- ①地域の紫藤さんご夫婦の協力により、苗植えができました。育て方も教えてもらいました。(地域の協力)
- ②皆さんが毎日水やりを行いました。(水やりの大切さ)
- ③根から水分をすいあげ、最高8メートルくらいの高さまで水分を運び、何枚もの葉っぱで養分をつくり、ゴーヤの実に栄養を送りつづけました。(ゴーヤの生命力)
- ④水分や栄養をもらった実はぐんぐん大きくなりました。(ゴーヤの生命力)
- ④最後には、次の子孫を残すために、黄色くなり中に種ができるまでがんばり、開いて地面に種をおとし、見事に一生を終えました。(ゴーヤの使命感、責任感)

南小のこどもたちの努力や地域の人たちの協力はもちろんありましたが、ゴーヤの成長はすごいものがありました。ゴーヤ自身の力で水分を吸い上げ、茎を伸ばし、葉っぱを何枚も開かせ、実をつけ、何百枚という葉っぱの1枚1枚から栄養をつくり、1つ1つの実を送り、ぐんぐん実を大きくしました。その力を例えるならば、小さな実は南小のこどもたちです。みなさんは、友達、家族、先生、地域の方々から、いろいろな知識や温かい心をもらい、どんどん大きくなっていきます。みんなの周りには、力になってくれる人たちがたくさんいます。そのことを忘れず、努力をおこたらず、心と体を成長させてください。そして、いつか、自分が身につけたことを、周りの人のために役立て、周りの人を幸せにしてほしいと思います。



白水台地の陽光「さん」



絵本作家「よしながこうたくさん」来校

こうたくさんは、イラストレーターとして国内外の様々な仕事を手がけられていて、絵本「給食番長」「飼育係長」「あいさつ団長」「おそうじ隊長」は有名です。18日(金)、本校に来られ、子どもたちと一緒に絵を描かれました。「何でも好きなものを言っていていいよ」「好きな色は」「あなたが好きなように描いてみて」など、子どもたちの自由な発想と描き方を生かしながら、世界に一つしかないキャラクターを創っていかれました。独特な語り口で、子どもたちは大盛り上がりでした。プロとしての技を見せながら進められ、子どもたちが感動する場面がたくさんありました。



TKUドラマ「加藤清正 ~土木の神様 民とともに~」

10月27日(日)の午後4時5分~5時20分、加藤清正のドラマの放映があります。その中で、ゆかりのある鼻ぐり井手のことが紹介されます。本校では、この鼻ぐり井手を中心に、ボランティアガイドや、音楽劇「後の世のために」に取り組んでおり、今回のドラマの一部に、取り上げられています。子どもたちの活躍の場面をお見逃しなくご覧いただければありがたいです。

